



謹賀
新年



松之山を考える年に

移住定住教育環境促進部会長 小野塚 建治

明けましておめでとございます。

日頃、松之山自治振興会にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。平成24年度から活動を開始した松之山自治振興会も早いもので設立から13年目を迎えました

平成の大合併で何もかもがどんどんと広域化・効率化されてきた中で、住民が小規模な組織を基盤に自ら構想し、必要なことを実行する。自分たちに必要なことは自分たちでやったほうがかゆいところに手が届く。行政から少しの権限と財源をゆずってもらい、自分たちで課題解決する「仕組み」をつくる。そんな組織が松之山自治振興会と考えてきました。

昨年立ち上げた移住定住教育環境促進部会もその仕組みのひとつです。ある意味では松之山のようにいち早く過疎・高齢化が進んだ地域は、人口減少社会の最先端を走っているとも言えます。

昨年は松之山分校閉校記念式典やJA松之山支店のプラザ店化、中心市街地内の商店の閉店など、人口減少に拍車をかける出来事が発生しました。一方で全国には、人口が減っても地域の活力や人のつながりを保つ工夫をしている市町村や地域がたくさんあるのはご承知のとおりです。

十日町市においても、移住コンシェルジュによる相談窓口の設置や空き家バンクの取り組みが進み、松之山学園の雪里留学や

地域おこし協力隊の受け入れは大きな成果をあげています。

加えて松之山には自分たちで何としなければいけないという気概があります。温泉娘「松之山棚美」の取り組みや県内外の大学との交流、東京松之山会を始めとする地元出身者とのつながりなど様々な活動が進められています。

松之山自治振興会は、松之山に移住をしたい人、松之山を応援したい人を積極的に呼び込み、その人たちと連携して松之山の活気を取り戻したいと考えています。地域に夢と実行力があれば、ふるさと回帰の流れが一段と進むはずで、地域の皆様とともに「松之山を考える一年」になることを願い、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2025:令和7年度事業

**来年度まちづくり助成事業
申請締切は2月20日です**

募集案内は1月に回覧してありますが、申請締め切りが迫っています。

期日を過ぎると来年度予算案作成に間に合いませんので、至急申請手続きをお願いします。

【問い合わせは事務局中島まで】

◆例えば小正月行事

現代っ子でも伝統行事は新鮮で楽しい！

時代がどんどん変化し、生活様式の多様化もあり、伝統文化の存続が難しくなっていますが、現代の子どもたちも餅つきやカルタ取り、鳥追いなどの小正月行事には目を輝かせてくれます。今年の事業の一片を紹介します。

毎年三省ハウスには小正月行事を体験する子どもたちがたくさん訪れます。初日11日のお昼にはウエルカム餅つきを地域と協力して行い、大歓声でつき上げた餅は全部平らげられました。当日夜は小谷集落で鳥追いを、翌日は同じ小谷集落の才の神に参加し、雪国の文化をたっぷり体験して都会に戻っていきました。



参加した子どもたちと、大臼で4升餅をつき上げました。写真上部には花もちが飾ってあります。

左は小正月恒例行事で根強い人気があるカルタ取り大会の様子です。今年は保育園児から大人まで25名（昨年は30名）の参加で楽しみました。伝統文化は面倒だと思っている大人の皆さま、子どもたちの感想をぜひお聞き下さい。



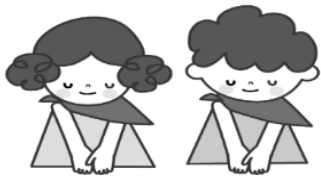
公民館主催の松之山カルタとり大会は、毎年熱戦が繰り広げられます。【1月18日】

自治振興会ではまつのやま学園の支援活動の一環として、スポーツや文化活動で優秀な成績を上げた児童生徒の懸垂幕を休養村センターに掲示しています。ぜひご覧ください。



松之山まちづくり応援寄付金をいただきました。【10/15～12/30期間】

ありがとう



おところ	お名前	おところ	お名前	おところ	お名前
文京区	早川 敏 様	目黒区	津端健一 様	所沢市	柄澤夜代江様
新宿区	木村光子 様	船橋市	村山賢作 様	葛飾区	比嘉知子 様
新潟市	阿部みき子様	新潟市	田中秀次 様	匿名	6名様
				寄付金計	150,000 円

◆編集後記◆

松高として長く愛されてきた松之山分校が、3月4日に最後の卒業生19名を送り出して閉校になります。閉校事業実行委員会では「雪華」と題した記念誌を編集中ですが、この命名者は故高橋秀夫氏です。生涯松高を応援し続け、松高と共に逝った大先輩でした。

K.Nakajima

松之山地域への変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。各種地域活動に還元させていただいております。



松之山自治振興会 事務局

<https://www.facebook.com/hai.koncho>

☎942-1406 新潟県十日町市松之山 1597-2 (松之山支所 地域振興課内)

☎:025-596-3131 fax:025-596-3515 E-mail: m_jichishinkoukai@yahoo.co.jp

【松之山の人口1月末】 総人口 1,576人 (男 749人 女 827人) 世帯数: 754世帯
(総人口 前月比: -2人)

中学校の学区再編に向けた今後の進め方

※日程は、令和16年度に新しい学校を創るとした場合の目安

日程	協議等事項
R6年12月 ～ R7年3月	(1) 再編協議を行うための研究会の開催
	1)目的 今後の再編協議に向けて方向性を検討するため、ベースとなる考え方を共有する。
	2)対象 地域自治組織役員など
	3)内容 <ul style="list-style-type: none"> ・提言から見る今後の十日町市の中学校の在り方 ・先進事例にみるこれからの学校教育 ・協議ブロックの設定検討 など

	(2) 協議ブロックの設定
	1)目的 あり方検討委員会の提言を基にした再編素案（別紙1）を参考に、(3)の新しい学校づくりに向けた協議を行う「地域自治組織のブロック」を設定する。
	2)対象 地域自治組織
R7年3月末	(3)の新しい学校づくりの協議を行うブロックを地域自治組織で決める
	3)内容 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校づくりの検討を全市で1校で行うか、2ないし3校で行うか。 ・2ないし3校の場合、どことどの組み合わせで行うか。

※この段階では、まだ統合校の決定ではありません。

	(3) 地域自治組織における学区再編の意思決定
R7年4月 ～ R7年9月	1)目的 <ul style="list-style-type: none"> ① (2)のブロックごとに、関係する自治組織の委員による「新しい十日町市立中学校をつくる検討会(仮)」を設立し、魅力ある学校づくりを協議する。 ② その上で、地域自治組織において当該ブロックにおける学校再編（統合）を検討し意思決定する。
	2)対象 地域自治組織の役員・保護者など
	3)内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 新しい学校をどんな学校にするか協議・検討する <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な学校づくりに向けた構想の検討 ・再編に必要な教育環境の整備（設置場所、施設整備・通学手段等） ・再編に当たっての地域や社会と連携・協働の体制 など
R7年9月末	②新しい学校が形づけられたら 地域自治組織において、新たな再編校に参加するか決める

日程(目安)	協議等事項
	(4) 新たな再編校の設立に向けた具体的な内容の協議
R7年10月 ～ R8年 3月	1)目的 (3)で学校再編の意思決定した地域自治組織の各関係者で「設立準備会(仮)」を設置し、新たな再編校の設立に向けた具体的事項について協議する。
	2)対象 地域自治組織・保護者、学校・行政の関係者など
	3)内容 <ul style="list-style-type: none"> ・再編校の内容等に関すること（再編日、校歌、教育目標等） ・再編後の施設活用に関すること ・その他再編準備に関すること（生徒の交流、通学バス、体操着等）

「十日町市立中学校のあり方提言」に基づく検討協議がスタート！

10年後の中期的視点に立った今後のスケジュール案を示しました

十日町市立中学校のあり方提言は7月23日の松之山会場（本紙8月10日号）をはじめ市内の全自治組織単位での説明会を終え、教育委員会では今後の進め方について10月31日の自治組織連絡協議会で計画の概要を説明しました。（本紙11月10日号）

その第一段階として再編協議を行う研究会（対象は自治組織の役員で、樋口会長、小野塚和生、井上理英、小口千亜希、中島事務局長で参加）が昨年12月からこれまで2回開催され、1月27日の2回目では、今後の協議検討スケジュール案がより具体的に示されました。（次ページ図参照）

令和7年度末までに新たな再編校の具体的な内容の決定まで進めるといふ、非常に短期間集中スケジュールになっています。これは提言の中期的視点（10年後に2校または3校とす）の中で、仮に新たな学校を建設するとなると用地選定から建築まで10年（令和16年まで）は必要であることからの逆算で求められるスケジュールです。今後の協議検討による新たな方向性も考えられることから見直しの可能性も含んでいます。いざこれにせよ中期的視点の再編は、10年後より先延ばしは避けるべきという提言内容を尊重する計画となります。

そして次の段階では、提言を基にした4つの再編案ブロック【①信濃川を挟んだ東西で2校 ②川西中学校を含む十日町中学校から北部とそれ以外の南部での2校 ③信濃川西で1校+東を十日町中学校から北部と南部に分

けた全部で3校 ④長期的視点に立つ全市1校（建設場所として上沼道十日町インター付近を想定）の中から各自自治組織がいずれかを選択し、同じブロックを選択した自治組織同士でどのような学校が考えられるかの話し合いを行うとしています。ただし複数のブロックに重複している学校もあり、また地域によっては初めから長期的視点を考えた1校を目指す考えもあることから、最終的な枠組みがどのようなかは流動的です。留意すべきは、この段階では話し合いを行うブロックを決めることであり、統合校が決まるわけではありません。さらに次の段階で枠組みが決まったブロックごとに新しい十日町市立中学校をつくる検討会（仮）を設立し、魅力ある学校づくりを協議します。協議により方向性が形づくられた段階をもって、各自自治組織において新たな再編校に参加するかどうかを判断するとしており、ここで初めて新たな統合校の枠組みが決定することになります。

そして最終段階として新たな再編校の設立に向け「設立準備会（仮）」を設置し、具体的な内容の協議に移行していくというスケジュールとなっています。

将来的に児童生徒が激減する現実を踏まえ、複数学級と教員数の確保でより質の高い教育環境を継続するための計画ですが、一方でまつのやま学園のような小規模で特色ある教育を行う学校も必要とされています。

提言では「中期的視点に立つ適正な配置」の中で「小規模特認校や学びの多様化学校、サブキャンパス、サテライト校など新しい学校の形も検討対象。また特色ある教育活動、通学状況、地域性の観点から、小規模校を維持することもあり得る」としています。まさにまつのやま学園が該当しています。今後も一定の生徒数が確保できるかが課題であり、新しい学校の枠組みの中でも、まつのやま学園がこれまで同様に重要な学校であることを一層強く認知されることが求められます。

改めて記すと、このスケジュールは提言に基づく中期的視点に立った市立中学校再編を進めるための具体的な案として教育委員会が示したものです。今後の各自自治組織の動きなどにより、新たな方向に向かうことも有り得ることをご理解ください。

松之山自治振興会では先日2月4日に正副会長と3部会の正副部会長及び研究会参加メンバーによる会議を開催し、地域としてどのように進めていくかを検討した結果、昨年7月の説明会に準じた住民対象説明会を3月上旬に開催する準備を進めることにしました。日程が決まりましたらお知らせします。

